

## 令和元年度決算について

令和元年度の決算につきまして、第55回組合会にて議決されましたので、下記の通りご報告致します。

### 記

#### (1) 健康保険

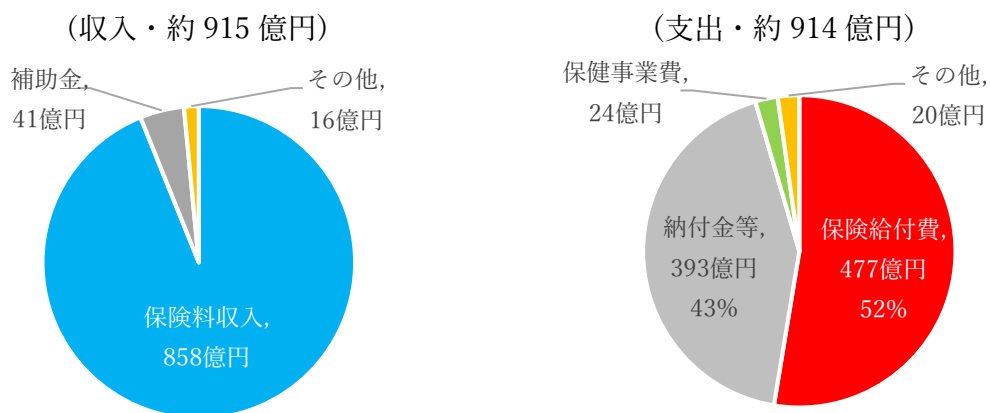
令和元年度の健康保険は、約915億円の収入に対して、約914億円の支出で、約1億円の黒字決算となりました。当初予算では想定していなかった補助金収入\*1が約41億円あることから、これを除く実質的な収支は約40億円の赤字となります。社会保障に対する政府予算が毎年厳しい状況となる中、今後も当健保に同補助金が支給されるかは不確定であり、支給されなかった場合には、赤字額を積立金の取崩しで補填することになります。

支出の内訳では、健康保険の本来の目的である医療費など各種給付金の支出が、加入者は747人減にもかかわらず昨年より約3億円増の約477億円に上り、全体の約52%を占めております。

また、高齢者医療制度への支援金、拠出金などの納付金\*2は昨年より約7億円増の約393億円、全体の約43%となり高齢者医療制度への負担が相変わらず大きい状況です。

\*1 高齢者医療運営円滑化等補助金

\*2 前期高齢者納付金約194億円、後期高齢者支援金約199億円(令和元年度決算)



なお、今年度の新型コロナウイルスによる当健保への影響は必至であり、積立金取崩しなどを含めて適切に対処してまいります。

## (2) 介護保険

令和元年度の介護保険は、約 90 億円の収入に対し約 86 億円の支出で、約 4 億円の黒字額を翌年度に繰り越しました。しかし、平成 30 年度からの繰越金を除くと約 1 億円の赤字となります。40 歳以上 65 歳未満の第 2 号被保険者の皆様からお預かりしている介護保険料は、当健保が市区町村に代わり徴収しているものです。第 2 号被保険者の人数に応じて負担していた「加入者割」から報酬に応じて負担する「総報酬割」へ令和 2 年度に完全移行したことによる負担増があり、令和 2 年度から保険料率を引き上げさせていただいております。

<b>収入計</b>	<b>90億円</b>
保険料収入	84億円
その他収入	1億円
前年度繰越金	5億円
<b>支出計</b>	<b>86億円</b>
介護納付金	86億円
その他支出	0.02億円
<b>次年度繰越</b>	<b>4億円</b>

